

ミツバチを描くことはSDGsに取り組むこと
応募作品1点につき1本の木を植えます

これまでの応募作品数
213,962点

山田養蜂場主催
第11回

ミツバチの一枚画コンクール



地球上の生き物は、お互いに深い関わりをもって生きています。
ミツバチを描くことで、「自然環境の大切さ」を改めて考えたい、
そしてより良い世界をつくる目標SDGsにも意識を向けたい。
そんな想いのつまったコンクールです。
あなただけの素晴らしいミツバチの世界を自由に描いてください。

応募締切

令和5年7月18日(火) 消印有効

応募者全員に**参加賞**を差し上げます

2018年以降の応募作品数から**93,699本**もの植樹を行ってきました!

作品の応募が森づくりにつながる

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



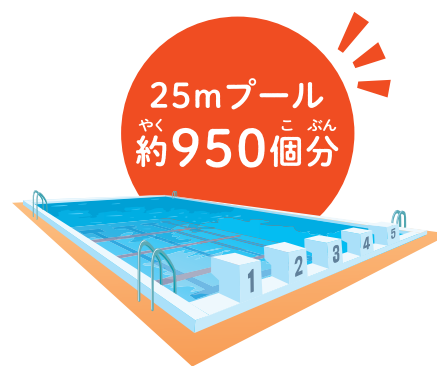
「ミツバチの一枚画コンクール」では、**応募作品1点につき1本の植樹**を行っており、昨年は第9回の応募作品と同数の20,416本を植樹しました。過去に植樹した場所では森が蘇っています。
養蜂業を原点とする山田養蜂場は、「自然との調和」を理念に掲げており、未来を担う子供たちに豊かな自然環境を受け渡そうと、1999年より国内外で植樹活動を続けています。これまでの植樹総本数は約220万本になります。



植樹地：ネパールの様子

植樹がCO₂削減につながる?

植物には、CO₂を吸収する働きがあります。その働きは、植物の種類や大きさなどによって異なりますが、例えば幹の太さ15cmのアラカンであれば、1本あたり1年間で約12kgのCO₂を吸収します。



当コンクールで植樹した93,699本に換算すると、**約112万kgのCO₂削減**に繋がることになります。これは、体積にすると、25mプール(長さ25m×幅16m×高さ1.5mの場合)約950個分にもなります。

募集テーマ

「花とミツバチ」「自然の中のミツバチ」「人とミツバチ」など、自然環境の大切さや人との関わりを感じられるミツバチを描いた絵画。

部門・賞

<国内作品>

部門	幼児の部	小学生の部	中学生の部	一般の部 ※他の部門に属さない方。
賞 (大賞)	<1点> 図書カード 5万円分 + 副賞	<2点> 図書カード 5万円分 + 副賞	<2点> 図書カード 5万円分 + 副賞	<1点> 賞金 10万円 + 副賞

上記のほか、各都府県で優秀賞、入選、佳作合わせて45点以上の表彰あり
・学校、クラス単位など団体応募も歓迎

◎団体奨励賞…コンクールの発展に寄与した学校・団体に授与します。受賞した小学校には児童書のセット、幼稚園・中学校・高校・画塾などには弊社商品をお届けします。

<海外作品> 17歳以下の部/18歳以上の部
※年齢は応募締切時点とする。※海外部門にも各賞あり

発表

2023年10月下旬に朝日小学生新聞、朝日中高生新聞、山田養蜂場の当コンクールウェブサイトにて発表予定

応募について

未発表で必ず本人が描いたものに限り、(HPや同人誌への掲載は発表とみなします)
※応募作品は返却いたしません。作品は写真などの記録に残して応募してください。

詳しくはコンクールウェブサイトをご覧ください。
応募用紙のダウンロードもできます。

URL
<https://www.3838.com/ichimaiga>

一枚画コンクール 検索



問い合わせ・作品応募先

「ミツバチの一枚画コンクール」事務局
〒531-0077 大阪市北区大淀北1丁目6番29号 凸版ビル4階
「ミツバチの一枚画コンクール」事務局
TEL 06-6452-3125 10:00~17:00 土・日・祝日のぞく

応募者の声

応募者(小学生の部)より

ミツバチは、植物や人間にとって貴重な存在だと知りました

ミツバチに対して、今までは「危ない」とか「怖い」というイメージがありました。しかし、絵を描くために本や動画を見て、認識が違っていたと気づきました。今では、ミツバチが植物にとって、また、人間にとっても欠かせない役割を持つ、貴重な存在だと思っています。

中学校の先生より

環境問題についての学びに役立っています

生き物がモチーフだと生徒が積極的に描いてくれるので、このコンクールに参加しています。「ミツバチが生きやすい環境」について考えることで「環境問題」について学べます。また、普段は知り得ない「ミツバチの生態」などに視線を向けられるところが良い点だと思います。

「実はすごい!ミツバチが作り出すおいしいはちみつのはみつ」
YouTubeにて動画を公開中!

山田養蜂場チャンネル 検索



主催:株式会社 山田養蜂場 ■共催:朝日学生新聞社

■後援:玉川大学ミツバチ科学研究センター、国際児童図書評議会、日本国際児童図書評議会、iBBY、JBP・学校をつくる会

この活動は、文部科学省の生涯学習の一環として行っております。

山田養蜂場はこどもエコクラブを応援しています。



アピセラピーを追究する。
山田養蜂場
YAMADA BEE FARM